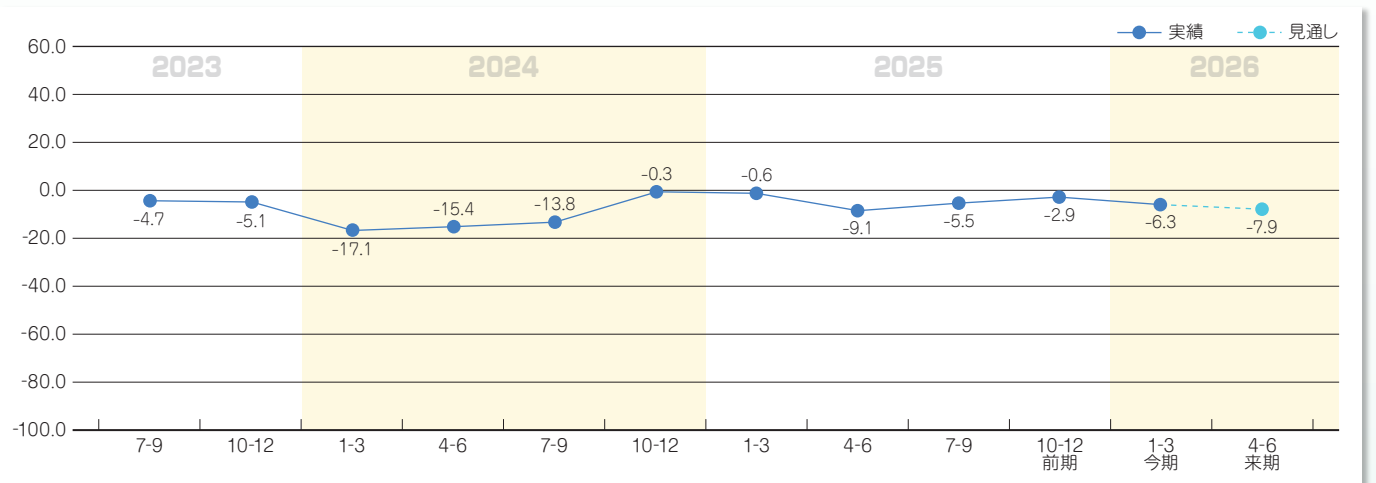


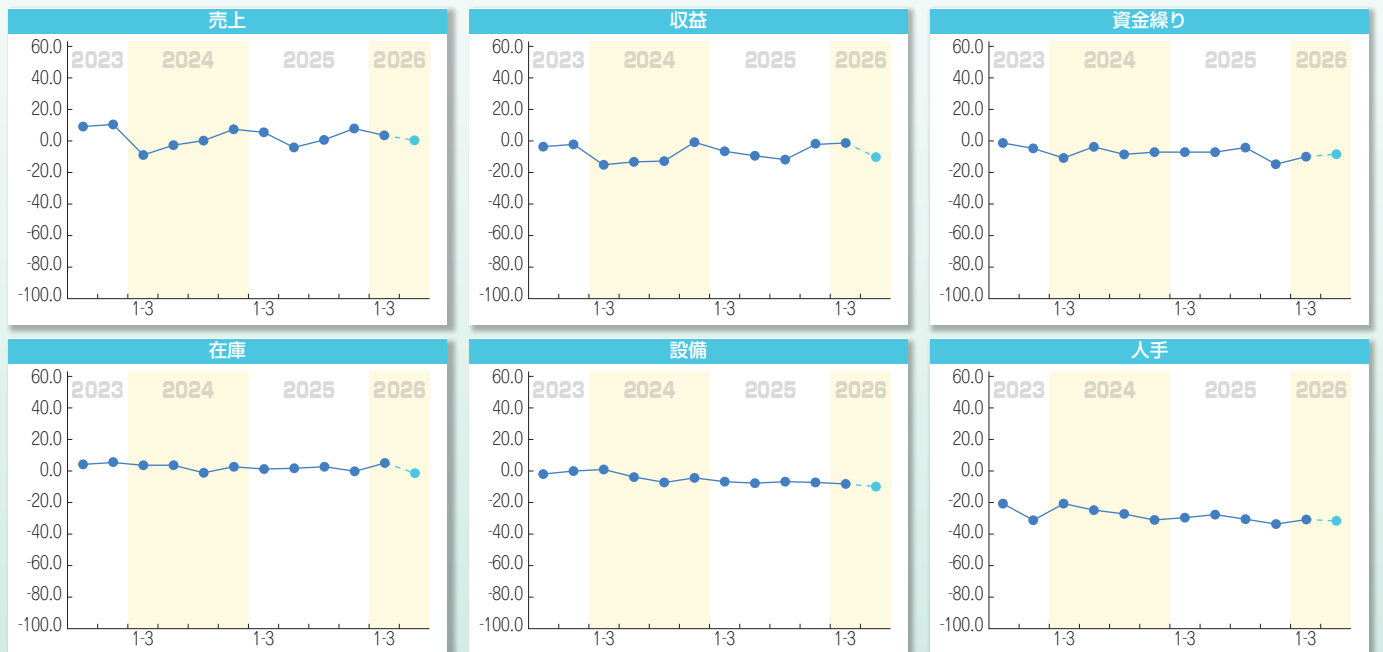
全業種

回答数318社

今期の業況D-Iは、前期比3.4ポイント低下の▲6.3と、3期ぶりに悪化。業種別では、製造業、卸売業は悪化した。その他の業種は改善した。来期の予想業況D-Iは、1.6ポイント低下の▲7.9と悪化の見通し。業種別では、製造業、卸売業は悪化を見込むが、その他の業種は改善の見込み。



主要D-Iの推移 (注)在庫/設備/人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

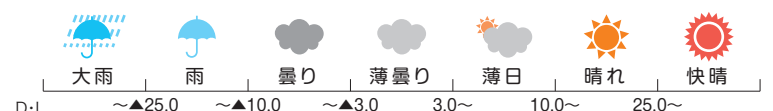


へきしん取引先景況調査とは

本調査は、地域および業種の景気実態および景気予測(景況)を把握するため、四半期ごとに当金庫の取引先企業様にアンケート調査を実施し、回答をいただいたものです。

**調査概要**  
 実施時期 2026年3月2日～6日  
 対象企業 318社  
 対象地域 西三河および尾張南部を中心とした当金庫の営業エリア

天気図の見方

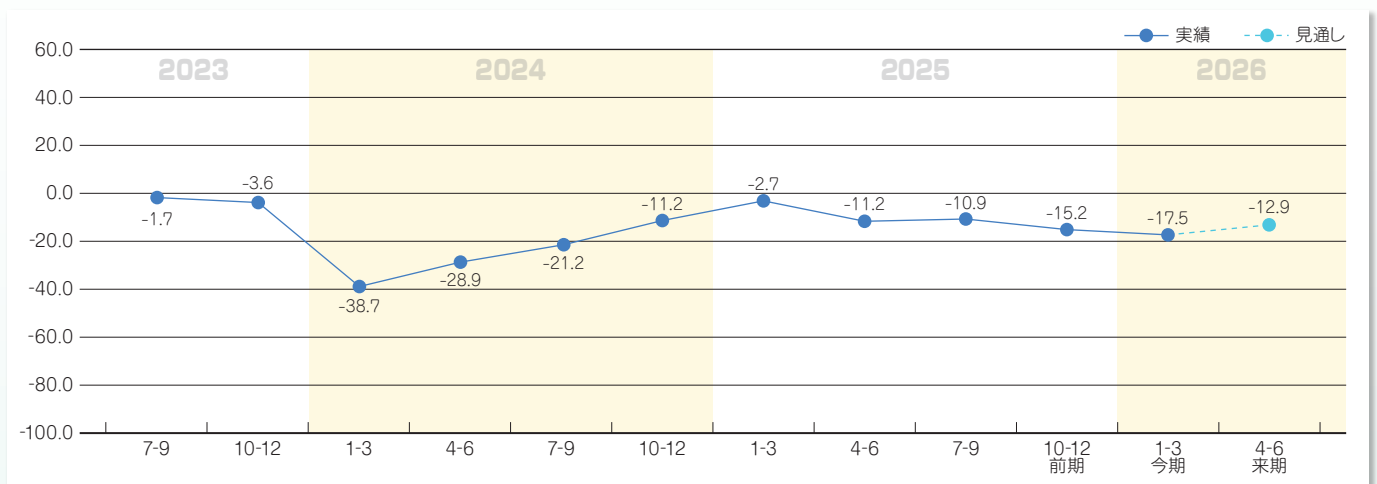


D-I(ディフュージョンインデックス)とは…業況(業界の景気)等を判断するための指数であり、(良いまたはやや良いと答えた割合)-(悪いまたはやや悪いと答えた割合)で求められます。

# 製造業

回答数115社

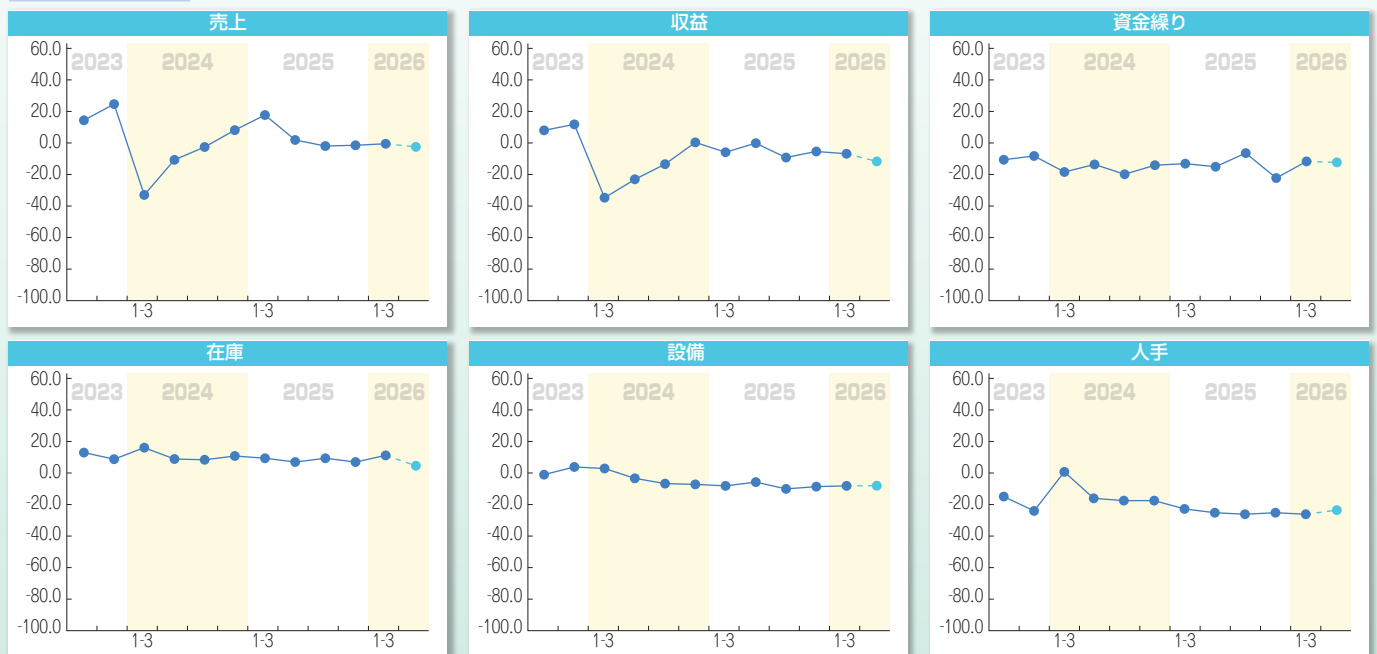
今期の業況D・Iは、前期比2.3ポイント低下の▲17.5と、2期連続で悪化した。売上D・Iがわずかに上昇した一方で、収益D・Iはわずかに低下。仕入価格高騰や人件費増加等により収益が悪化しているとの声が多く聞かれた。来期の予想業況D・Iは、4.6ポイント上昇の▲12.9と改善の見通し。



## 主要D・Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

● 実績    ● 見通し



- 製造ラインの見直しを図り、生産性が向上。原材料価格高騰に伴い、さらなる価格転嫁交渉が必要。(アルミダイカスト製造)
- 売上は増加しているが経費増加が続いており収益確保に苦慮。新工場移転計画が進んでおり、今後の設備投資を検討しながら資金繰りを安定させたい。(プラスチック製品製造)
- 人手不足により受注を増加できない。人材確保をまずはクリアできるよう取り組んでいく。(自動車部品製造)



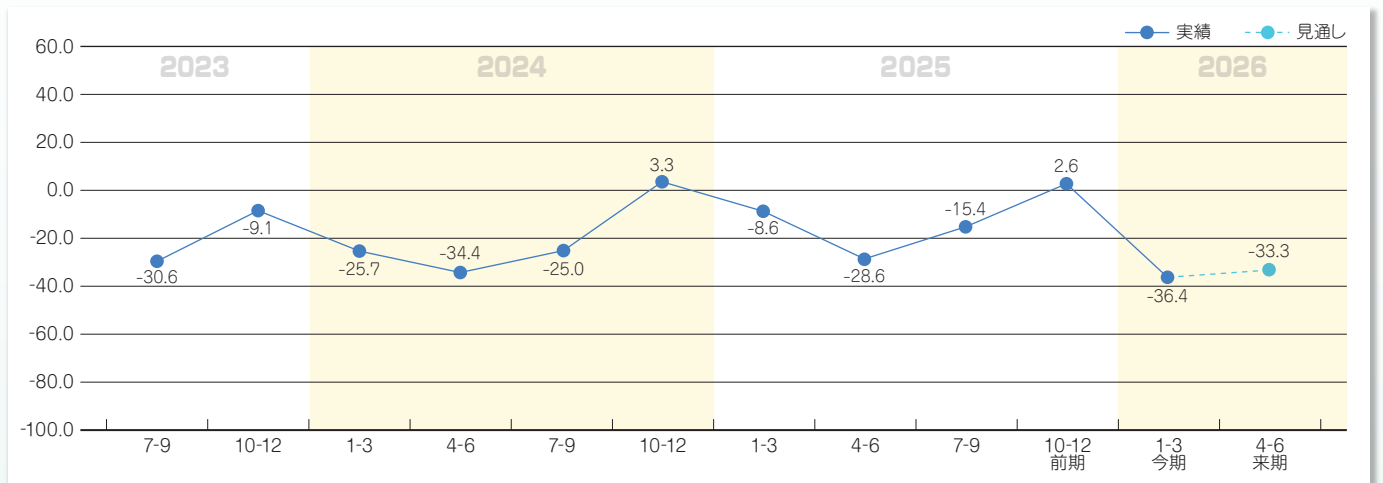
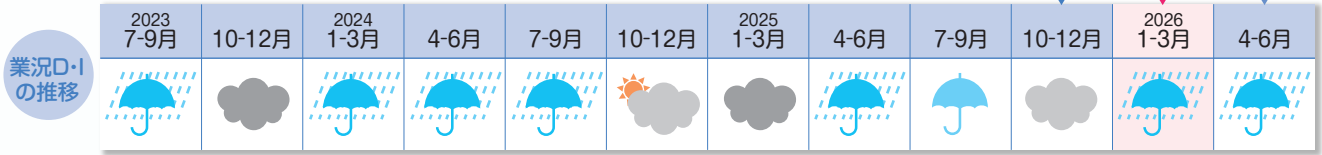


卸売業

回答数33社

今期の業況D・Iは、前期比39.0ポイント低下の▲36.4と、3期ぶりに大幅に悪化した。売上D・I、収益D・Iともに大幅に悪化。物価高や人件費増加等の影響を受けているとの声が多い。来期の予想業況D・Iは、3.1ポイント上昇の▲33.3と、わずかに改善の見通し。海外情勢も懸念され、先行きの不透明感は強い。

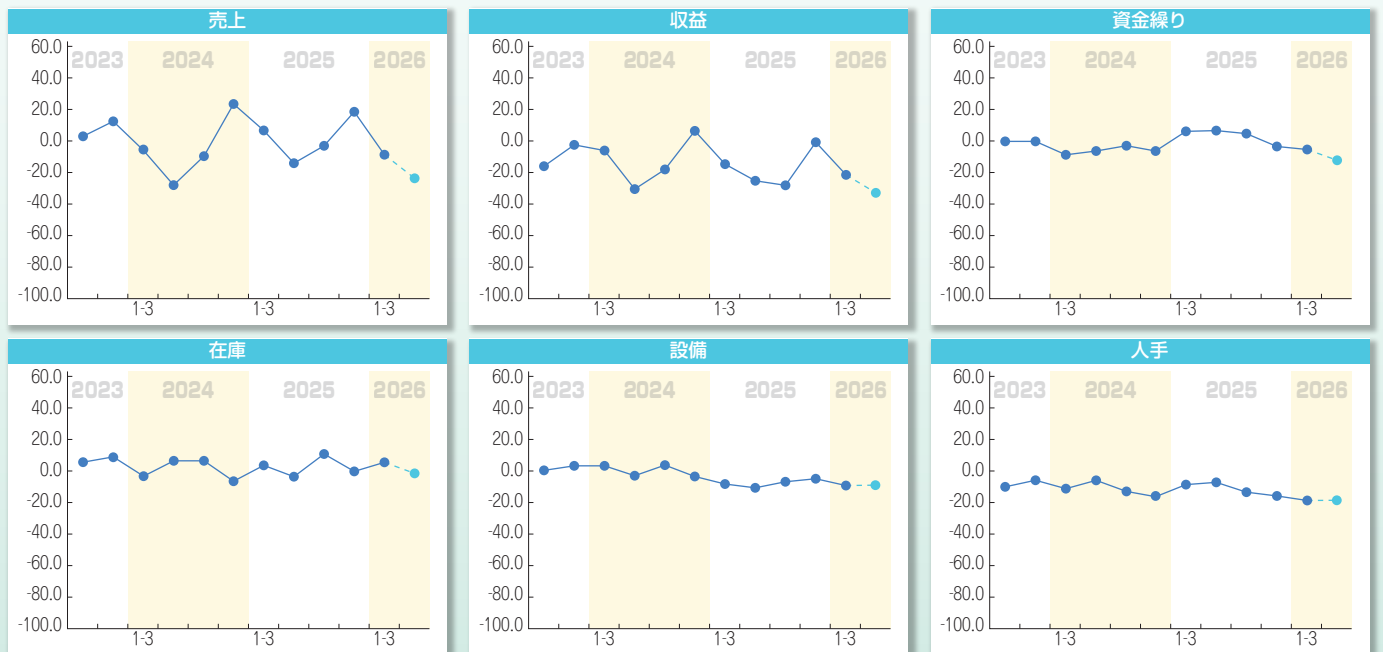
前期実績 今期実績 来期見通し



主要D・Iの推移

(注)在庫/設備/人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

実績 見通し



- 諸外国の情勢で、油の仕入値上昇が予想され、価格転嫁等の対応が必要となる。人件費等、販管費の見直しにて収益確保を図る。(石油卸売)
- 鉄鋼業界全体が不景気。利益率改善を図るため、内製化できるよう動いている。(鋼材卸売)
- 建築費高騰による計画中止などが増えており、需要が減少している。(生コンクリート・セメント卸売)

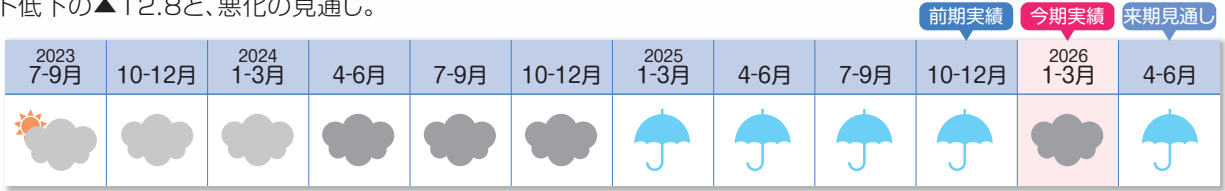


# 小売業

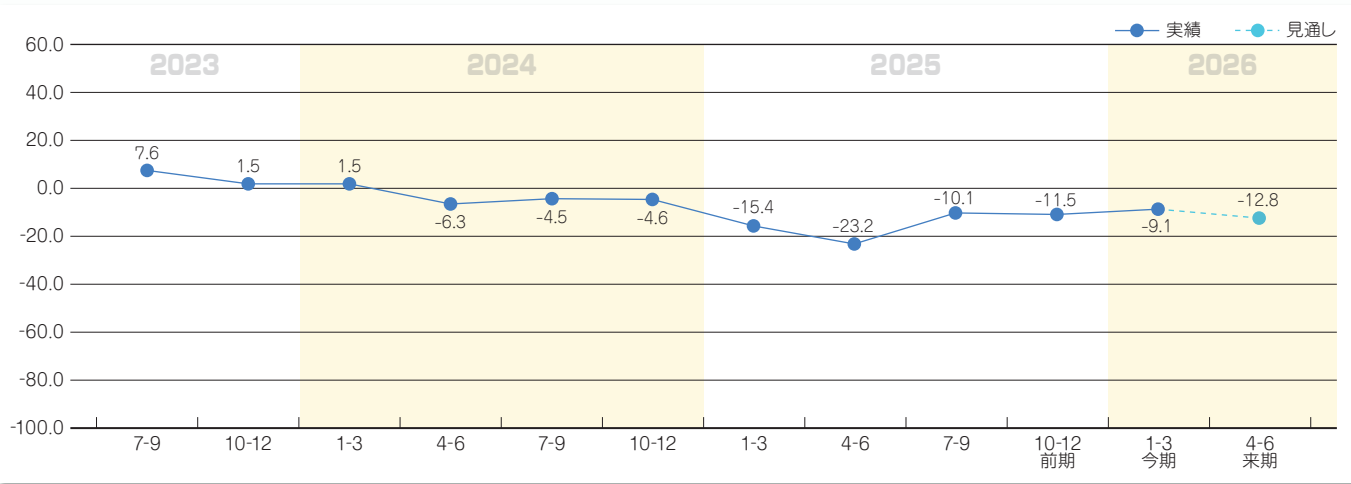
回答数55社

今期の業況D・Iは、前期比2.4ポイント上昇の▲9.1と、わずかに改善。仕入価格の上昇は続いているが、価格転嫁や大量仕入れによるコスト削減等に取り組んでいるとの声も聞かれ、収益D・Iは改善した。資金繰りD・I、人手D・Iも改善。来期の予想業況D・Iは、3.7ポイント低下の▲12.8と、悪化の見通し。

業況D・Iの推移



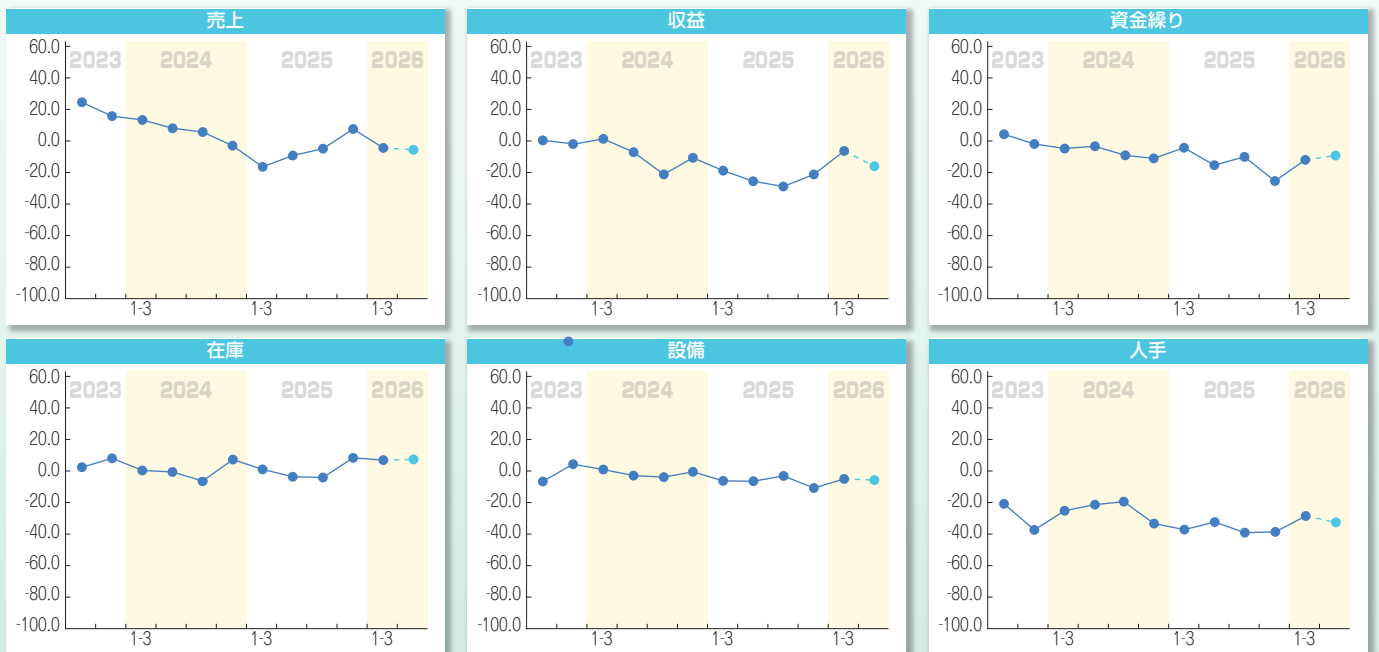
前期実績 今期実績 来期見通し



## 主要D・Iの推移

(注)在庫/設備/人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

● 実績    - - 見通し



- アルバイトを雇い、人手不足を解消。(飲食店)
- 米の仕入価格は上昇しているが、価格転嫁を少しずつ行っており収益を確保できている。引き続き価格の見直しをしていく。(食品等小売)
- 円安を背景にした海外ディーラーの攻勢もあり、相場は高止まり状態。デジタル戦略や仕入先の見直し等、収益向上に向けて改善施策を実施中。(中古車販売)

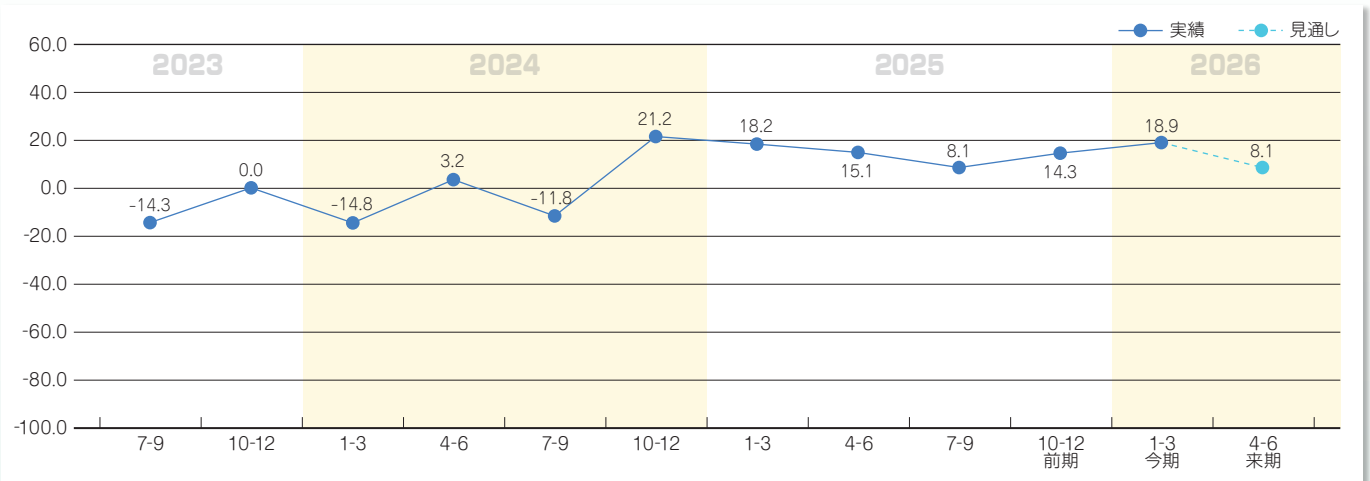


サービス業

回答数37社

今期の業況D・Iは、前期比4.6ポイント上昇の18.9と、2期連続で改善。売上D・I、収益D・Iは、ともに悪化したもののプラス水準を維持。人手D・Iは▲51.3と依然として人手不足感が強いが、人材育成に力を入れているとの声もあり、前期より改善した。来期の予想業況D・Iは10.8ポイント低下の8.1と、悪化の見通し。

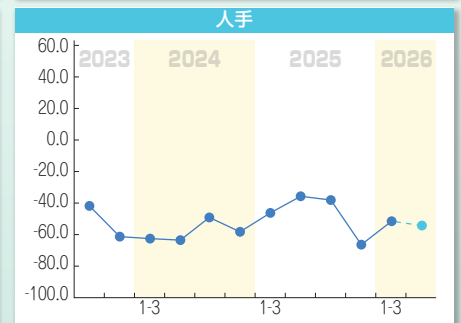
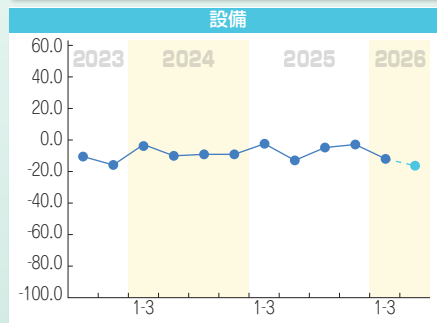
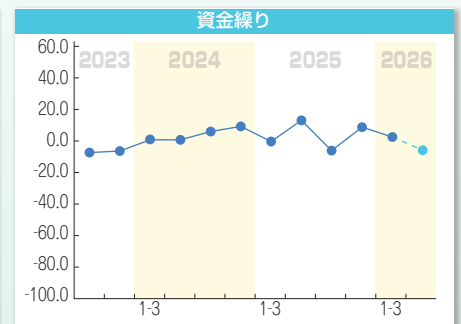
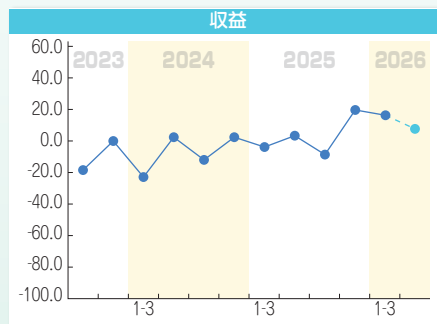
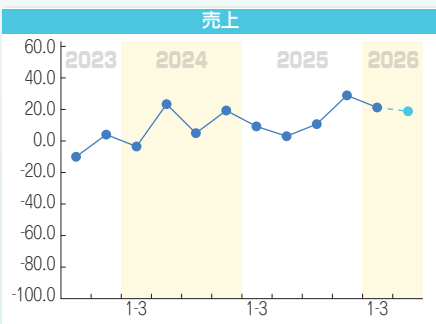
前期実績 今期実績 来期見通し



主要D・Iの推移

(注)設備/人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

● 実績 ● 見通し



- 取引先数が減少しており、新たな取引先の獲得が課題。SNS活用や民間金融機関からの紹介等で販路拡大を目指す。(税理士法人)
- 材料価格が高騰しており、収益が圧迫されている。経費削減が必要。(理美容業)
- 定款変更による従業員残業代改善を図った。(福祉サービス)



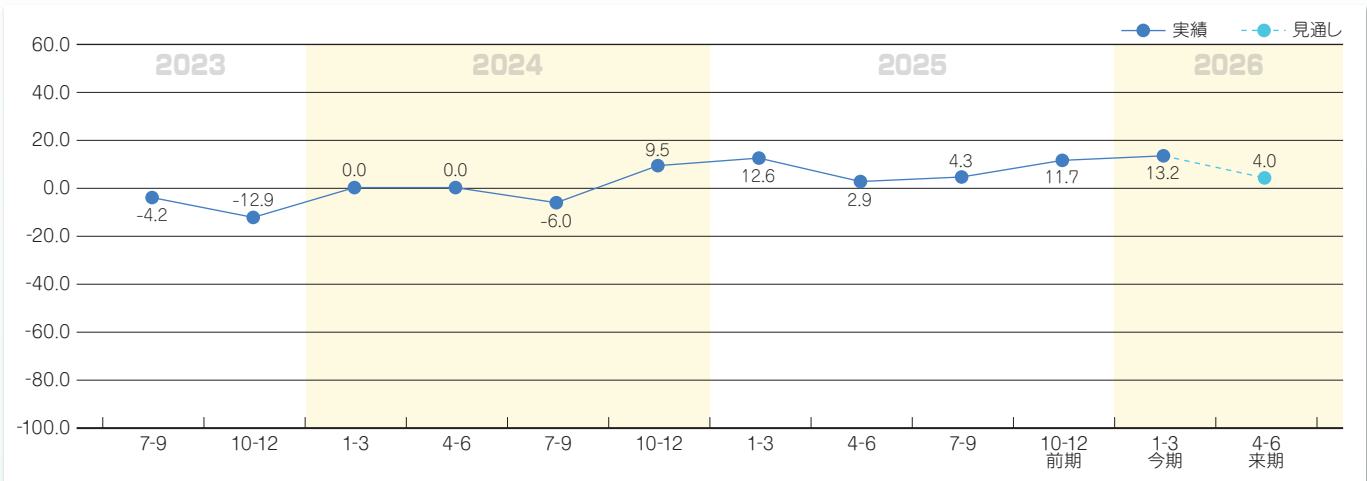
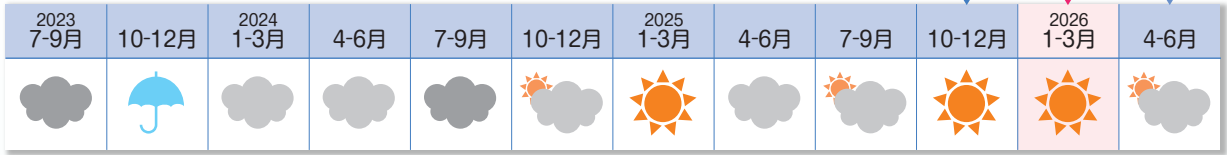
# 建設・不動産業

回答数76社

今期の業況D・Iは、前期比1.5ポイント上昇の13.2と、3期連続で改善した。売上D・I、収益D・Iともにプラス圏での推移が続いている。人手D・Iは改善したが、建設業では人材が不足しているとの声が多い。来期の予想業況D・Iは、9.2ポイント低下の4.0と悪化の見通し。

前期実績 今期実績 来期見通し

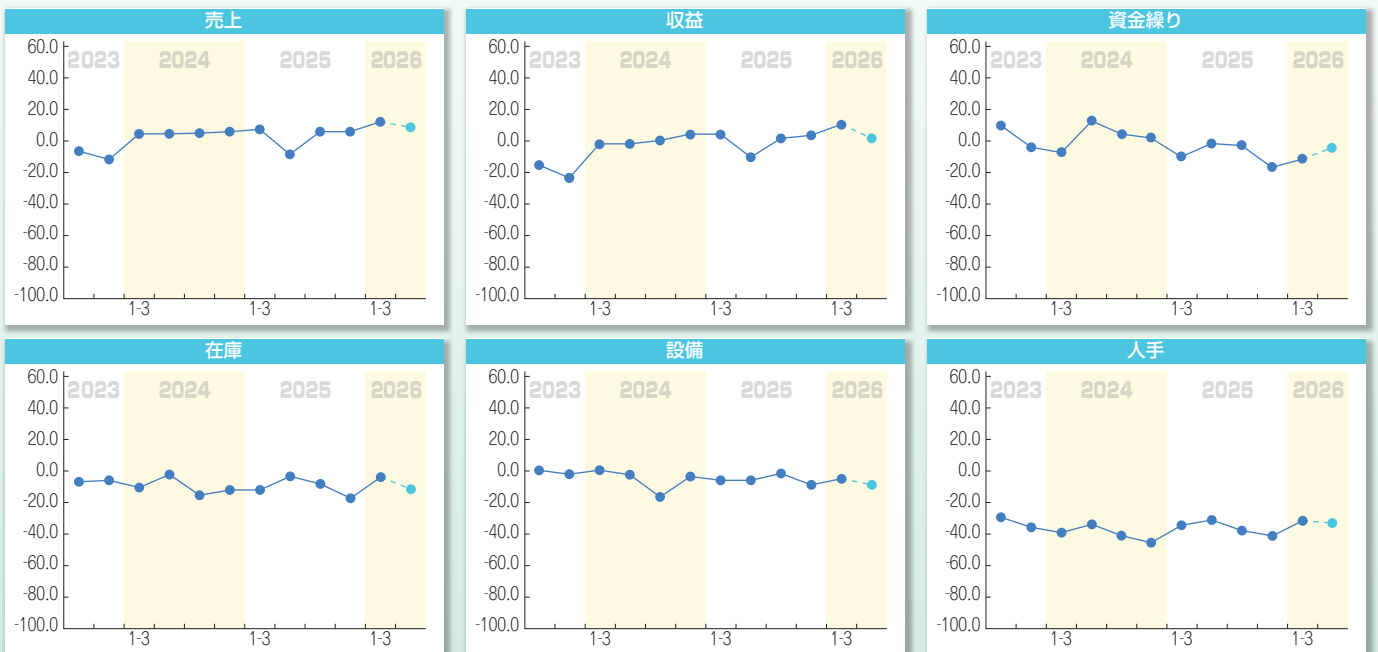
業況D・Iの推移



## 主要D・Iの推移

(注)在庫/設備/人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

● 実績 ● 見通し



- 新しい機械の導入により作業を効率よくできるようになり、生産性が向上する見込み。(土木工事)
- 物価上昇に懸念あり。引き続き価格見直しを行っていく。(建築業)
- 決算月に売上が増加し、期初に低迷する傾向があるため、平準化することが課題。(戸建分譲)
- 売上は増加見込みだが、利益率は大幅に悪化。金利情勢も逆風であり、今後も苦戦が予想される。(建売住宅・マンション販売)